

国語 第4学年 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「未来につなぐ工芸品／工芸品のみりよくを伝えよう（第4学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。要約の学習をどこまでしてきたか、引用や出典の書き方を学んだか、リーフレットを書いたことがあるか。

三、この学級の子どもの実態。読むのが苦手な子、書くのが苦手な子、調べ学習に慣れているか、などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、インターネットで調べられるか、学校図書館に工芸品の本や事典があるか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文末（「～している」「～しようとしている」）は変えない。

教科書の本文は引用しない。中心となる文を入れる所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喩や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう」教材名「未来につなぐ工芸品（大牧圭吾）／工芸品のみりよくを伝えよう」

2 単元の目標

(1) 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使う。幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く。（〔知識及び技能〕(2)イ・(3)オ）

(2) 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する（読むこと C(1)ウ）。自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する（書くこと B(1)ウ）。

(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（第3学年及び第4学年の目標(3)）

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①引用の仕方や出典の示し方、事典の使い方を理解し使っている。（(2)イ）

〔知識・技能〕②幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（(3)オ）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。（C(1)ウ）

〔思考・判断・表現〕②「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にし

て、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①積極的に、目的に合わせて中心となる語や文を見付けて要約したり、考えと理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって、調べた工芸品のよさをリーフレットに書こうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本単元は、説明文「未来につなぐ工芸品」を目的に合わせて要約し、そこで学んだことを生かして、自分で調べた工芸品のよさをリーフレットに書く単元である。教材文は、工芸品を未来に残したいという書き手の考えを、工芸品の事例を挙げて述べる文章で、考えが書かれた段落と事例が書かれた段落の関係がはっきりしている。そのため、学習指導要領第3学年及び第4学年のC(1)ウ「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」を、書き手の考えを落とさずに要約する学習として働かせやすい。書くことでは、調べた工芸品について、自分が伝えたいよさ(考え)と、その理由や事例を分けて書くので、B(1)ウの、考えと理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫する学習に直接つながる。読む時にも書く時にも、〔知識及び技能〕(2)アの、考えと理由や事例の関係を使う。光村図書の教科書では、第4学年の前半に要約の仕方を学んでおり、本単元はそれを目的に合わせて使う段階に当たる。第5学年では、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する学習(C(1)ア)へ進む。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。一つ目に、要約の前に必ず目的を決める。本時は「工芸品のよさを家の人に伝える」を目的とし、次の時間に目的を変えて要約を比べ、目的によって選ぶ語や文が変わることを子ども自身が確かめる(C(1)ウの「目的を意識して」)。二つ目に、読む学習で使う「考え」「理由・事例」の枠を、書く学習の材料の整理とリーフレットの割り付けにも同じ形で使い、二つの学習を結び付ける((2)ア、B(1)ウ)。三つ目に、調べたことを書き留める時は、本や事典の名前とページ、ウェブサイトの名前を必ずカードに書かせ、リーフレットでは引用する部分をかぎで示して出典を書かせる((2)イ)。リーフレットは、伝えたいよさ(考え)と、その理由や事例が別の文や見出しで分かれて書かれている物を「おおむね満足できる」状況、理由や事例を本や事典から引用し、出典を示して考えとのつながりを読み手に示している物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画(全12時間)

第1次 第1時：○題名から、工芸品について知っていることを出し合う。○範読を聞き、初めて知ったことと書き手の考えについての感想を書く。○学習課題「工芸品のみりよくを、要約や調べたことを使ってリーフレットで伝えよう」を決め、学習計画を立てる。 評価：態①(発言・ノート)

第2次 第2時：○文章の組み立てを捉え、書き手の考えが書かれている段落と、事例が書かれている段落を分けて組み立て図にする。

第2次 第3時(本時)：○「工芸品のみりよくを家の人に伝える」という目的に合わせて、まとめりごとの中心となる語や文を見付け、文章全体を要約する。 評価：思①(ノート)

第2次 第4時：○目的を変えて要約し、本時の要約と比べて、目的によって選ぶ語や文が変わることを確かめる。○工芸品や書き手の考えについて、自分の考えをノートに書く。 評価：思①(ノート)

第2次 第5時：○要約と自分の考えを伝え合う。○工芸品について書かれた本や事典を読み、分かったことを友達に伝える。 評価：知②(読書記録・発言)

第2次 第6時：○読む学習を振り返り、要約の仕方をまとめる。○リーフレットの作例を見て、書く学習の進め方を確かめる。

第3次 第7時：○紹介したい工芸品を選び、事典や本、先生が選んだウェブサイト調べ、出典と合わせてカードに書き留める。 評価：知①(カード)

第3次 第8時：○調べたことを、伝えたいよさ(考え)と、その理由や事例に分けて整理する。

第3次 第9時：○リーフレットの面の割り付けと、考えと理由・事例のつなぎ方を考え、組み立てメモに書く。 評価：思②(組み立てメモ)

第3次 第10時：○組み立てメモに沿ってリーフレットを書く。引用する部分はかぎで示し、出典を書く。 評価：知①(リーフレット)

第3次 第11時：○書いた物を読み返し、考えと理由・事例のつながり確かめて書き直す。 評価：思②（リーフレット） 態①（見直し）

第3次 第12時：○リーフレットを読み合い、感想を伝え合う。○単元の学習を振り返る。 評価：態①（振り返り）

6 本時の指導（3／12）

（1）本時の目標

「工芸品のみりよくを家の人に伝える」という目的に合わせて、まとまりごとに中心となる語や文を見付け、書き手の考えを落とさずに文章全体を要約できる。（C(1)ウ）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：1 前時に作った組み立て図（考えの段落と事例の段落）を確かめる。

2 要約する目的を確かめる。

○「今日は、工芸品のみりよくを家の人に伝えるために要約します。どんな言葉や文を残せばよいでしょう」

【めあて】目的に合わせて中心となる語や文を見つけ、文章を要約しよう。

予想される児童の反応：・大牧さんの考えが書いてある文は残したい。

・工芸品の名前は残さないと伝わらない。

・事例の細かい所は短くしてもいい。

指導上の留意点：・前時の組み立て図を黒板に貼る。

・第4学年の前半で学んだ要約の仕方（中心となる語や文を使う、自分の言葉でつなぐ）を掲示で思い出させる。

・要約の字数は使う教科書の手引きに合わせて先生が決め、めあての横に書く。

【展開】

学習活動：3 一人で、まとまりごとに中心となる語や文に線を引く。

○「このまとまりで、大牧さんがいちばん伝えたいことはどの文ですか。その文の中で、外せない言葉はどれですか」

4 線を引いた語や文を使い、つなぐ言葉を補って要約を書く。

5 ペアで要約を比べ、残した語や文と、その理由を説明し合う。

○「二人の要約で、残した言葉は同じですか。違うのはどこですか。なぜその言葉を残しましたか」

6 全体で何人かの要約を比べ、目的に合う要約に入っている語や文を確かめる。

予想される児童の反応：・段落の初めや終わりの文に考えが書いてある。

・何度も出てくる言葉が中心になる。

・工芸品のよさを表す言葉を残したい。

・作る人の思いが書いてある所も残した方が、家の人に伝わる。

・同じ文を選んだけれど、つなぎ方が違う。

・事例を全部書くと長くなりすぎる。

指導上の留意点：・線を引く前に、要約する目的を一人一人に声に出して確かめさせる。

・どこに線を引くか迷う子には、まとまりの初めの文と終わりの文を比べさせ、「どちらにまとまり全体のことが書いてあるか」と聞く。

・要約が長くなる子には、事例の細かい説明を消してよいか、目的に戻って考えさせる。

・要約が短すぎて大牧さんの考えが抜けている子には、組み立て図の考えの段落を指して確かめさせる。

・書くのが苦手な子には、まとまりごとに中心となる文を書き写す枠のあるワークシートを渡す。

・早く終わった子には、目的を「工芸品を作る人に感想を伝える」に変えたら残す言葉が変わるかを考えさせる。

・教科書の文の引用は、使う教科書から先生が書き入れる。

【まとめ】

学習活動：7 友達の要約と比べて気付いたことを生かし、自分の要約を見直して書き直す。

【まとめ】要約するときは、目的に合わせて、まとまりの中心となる語や文をえらび、書き手の考えを落とさずにつなげる。

8 振り返りを書く。

指導上の留意点：・まとめは子どもの言葉で作り、上の文は例として扱う。

- ・振り返りは「中心となる語や文を選んだ理由」と「友達の要約と比べて気付いたこと」の二つで書かせる。
- ・次時は、目的を変えて要約を比べることを伝える。

評価：思① 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(ノート)

(3) 板書計画(縦書き・右から左へ)

縦書きで右から左へ書く。右端に日付・題名・めあてと要約する目的(家の人に工芸品のみりよくを伝える)。その左に前時の組み立て図(考えの段落と事例の段落を枠で分けた図)。中央に、まとまりごとの中心となる文のカード(先生が教科書から書き入れる)を順に並べ、子どもが選んだ外せない言葉に色で線を引く。その左に子どもの要約を何人か貼り、同じ言葉と違う言葉を比べる。左端にまとめと、振り返りの観点二つ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

